

しんしろ助産所新聞

第11号

発行元 しんしろ助産所 since H23年6月27日



メディアを通して

子育て家族に情報発信中

「ブログをやってみたらどうですか?」一人でも多くの方にしんしろ助産所を知ってもらうにはどうしたらいいんだろう...。広報に悩んでいた時、あるお母さんの一言から「しんしろ助産所だより」がはじまりました。現在は「こども園メール」とこの2本立てで情報を発信しています。

ブログを始めよう!

しんしろ助産所では開設からおよそ半年後の、平成24年1月からブログをはじめました。「助産所の存在をなかなか知ってもらえない」「もっと多くの方に利用してもらいたい」と悩んでいた時に、あるお母さんに勧めてもらったのが「ブログ」。タイトルは「しんしろ助産所だより」と名付けました。

専門知識が求められる

ブログ開設から3年が経過し、検索キーワードや人気記事から読者のニーズも見え始めてきました。「泣きやまない」「吐く」「飲みが悪い」など「うちの子ども」丈夫なのかな...?という成長過程についての不安や、「母乳分泌不足」や「うまく吸えない」など、母乳栄養に関する悩みをインターネットで検索しているうちにこのブログに辿り着く方が多いようです。溢れるほどの情報

総アクセス数50万件超え 毎月2回メールでお知らせ

ブログの内容は「出来事」や「かわいいおきゃくさま」などの日記の他、「子どもの健康」や「おっぱい」など専門性を活かしたものとあります。ありがたいこと

新城市では、今年4月以降に母子手帳を発行した方を対象にお母さんの産後1カ月健診の助成がはじまりました。助成金額は5千円です。この助成券は妊婦健康診査受診票と同様に使うことができますが、使用先は血液検査(貧血)もあることから、医療機関(病院・診療所)に限られます。

産後1カ月健診の助成が始まりました

しんしろ助産所の場合は、1カ月健診は聖隷三方原病院を予約します。妊婦健診と同様に、助産所から助産師が出向き、医師と一緒に健診を行います。出産時の異常出血等がなければしんしろ助産所でも1カ月健診をお受けできますが、その場合には助成券が使えず自費での健診になります。

の中で専門知識を求めているお母さんが大勢みえることがわかりました。

応援ありがとうございます

助産所ブログの所属する「どすごいブログ」は東三河地域に住むブロガーさんが書いたブログの集合体です。「しんしろ助産所だより」は11月12日現在、1日平均アクセス数285件、3年間で50万件を超え、9191ブログ中4位の閲覧件数です。また「しんしろ助産所だより」を840人以上の方がブックマークしてください。多くの定期読者に応援していただいていることを感謝しています。まだご覧になっていない方も、ぜひ一度ブログをのぞいてみてください。

メールでイベント案内

その他、メールでも情報発信をしています。こども未来課発「こども園メール」には市内の子育て情報の一つとして助産所でのイベント案内なども載っています。一度登録を済ませれば、1日・15日と月2回、自動的にメールが送信されます。ぜひ登録しご活用ください。

ブログ: しんしろ助産所だより

http://shinshirojosanjo.dosugoi.net/



こども園メール

t-shinshiro@sg-m.jp



※こども園メールはQRコード読み取り後に空メールを送信すると登録できます。

家族で迎える 赤ちゃんの誕生

しんしろ助産所の出産は浜松市北区にある聖隷三方原病院院内助産所のオープンシステム(健診は地元で行い、リスクのある出産はスタッフや施設の充実した病院に向いて行く)を利用します。

院内助産所は病院内のローリスク妊婦を対象とした、助産師が管理運営にあたる部署です。聖隷三方原病院の院内助産所は和室仕様で分娩台がなく、お布団で産婦さんが産みたい姿勢で出産できる(フリースタイル)のが特徴です。フロアの中央にある柱の側面には、ここで出産

した多くの方々の赤ちゃん誕生シーンの写真が誕生記事と共に貼られています。お布団に休みながらまた臍の緒で繋がる赤ちゃんをホッとした表情で優しく抱くお母さんや、満面の笑みで赤ちゃんを抱き、ピースサイン送るお母さんの傍で二人を抱え込むように包み込むご主人やお子さんたちが写っています。どの一枚をとっても赤ちゃんを迎えた喜びが伝わってきます。

でも、日本ではつい最近まで妊娠出産は男子禁制のような風潮があり、このような家族揃って赤ちゃんを迎えたり、ましてや子どもが出産に立ち会うということは予想することもできませんでした。

院内助産所でも多くの立ち会い出産に遭遇して感じるのは、赤ちゃんは男々とは産まれないうこと、大変な思いをして生まれてくる命を夫婦一緒に迎えられること、出産を見て子どもがショックをうけることはなく、年齢に関係なくの子も健気にお母さんを労われるということです。

出産はご家族が赤ちゃんを育てる原点です。家族みんなに支えられた幸せなお産は今後に続く子育ての力になります。生活が変化し、今では父親の育児参加は欠かせません。お子さんたちにとっても、兄弟の誕生は大きな出来事ですが、自分の誕生と重ね併せ、大きな喜びにつながるように関わっていきたいと思います。

助産師の地域活動

新城市の公設の施設であるしんしろ助産所。助産師としての職を生かし、地域での活動も展開したいと、開設当初より市内および北設の中学校や高校での「いのちの授業」、こども園・子育てサークルでの講話などを行ってきました。今年度は新たに市内の小中学校、北設の中学校の2校において「いのちの授業」を行うことができ、その他、中学生を対象に助産師の仕事を通して働くということを伝えたり、子育てサークルでは子どもの怪我や病気の対応についてお話をさせていただきました。



子育てサークルでの講話「新しいキズの手当てと夏の感染症」



いのちの授業